

2025年度 JANPU

2025年6月26日(木) 19:00～

6月30日(月) 13:00～



e-learning 教材活用セミナー

大規模災害における看護活動

健康危機管理教材作成・運用検討委員会

教材紹介 大規模自然災害における看護活動



大規模自然災害の想定

大規模地震 発生

- 令和X年9月16日（木）午前3時、A県東部を震源とするM8.0の地震が発生
- A県内では震度6弱～震度7の強い揺れを観測
- 山中市は震度6強、震度2～4の余震が続いている

地震発生によるライフラインの被害影響（山中市）

令和X年9月16日（木）午前9時 現在

- 上下水道断水率90%
- 停電率90%
- 固定電話・携帯電話は通信制限により通じにくい
- 防災行政無線・衛星携帯電話は使用可能
- インターネットは使用可能
- メールは遅れて届く



大規模自然災害における看護活動 4単元

単元	項目
単元1 発災直後～72時間以内の看護・保健活動	項目1 災害対策の根拠となる法律 項目2 災害の各フェーズにおける保健活動の概要 項目3 災害対応の基本
単元2 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動	項目1 災害時の医療体制 項目2 災害時のトリアージ 項目3 医療ニーズが高い人々への支援
単元3 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動	項目1 避難所での生活環境の衛生対策 項目2 避難所における災害時要配慮者への対応およびアセスメントの視点 項目3 危機的出来事に見舞われた人々への支援 項目4 避難所における倫理的課題への対応 項目5 リスクコミュニケーション
単元4 72時間以降の避難所における看護・保健活動	項目1 二次的健康課題のアセスメントと対応（個人） 項目2 避難所の生活環境による二次健康課題のリスクアセスメント（集団） 項目3 避難所における二次健康課題の予防活動（集団） 項目4 健康危機発生時の看護職自らの安全管理・健康管理 項目5 健康危機対応における連携・協働－リーダーシップとメンバーシップ－

教材の活用方法の例

【講義】

- 本教材の動画を流しながら、教員が解説を加える
- 講義の事前課題として、特定の単元の特定の1～2項目について取り組み、臨むように指示する。

講義では、最初に事後テスト等を活用しながら、学生の学修状況を確認し、多くの学生が間違えたところを解説したり、討論したりして反転授業を行う

- 教材の中の「考えてみよう」を活用し、単純には答えが出せない状況について、学生に「みなさんはどうしますか？」「どちらを選択しますか？」「その理由は何ですか？」と問いかけ、ディスカッションを通して倫理観や態度の形成をねらう

教材の活用方法の例

【演習】

- シミュレーション教育やその他の演習を行う前の、知識レベル合
わせに活用する。関連する単元・項目を事前学習課題とすること
で、シミュレーション授業やその他の演習にスムーズに入れるよ
うにする。

【実習】

- 実習前の事前学習として活用する、あるいは実習後の復習として活
用する
- 学内実習において、教材の中のシミュレーション場面や動画を活用
する

例) 「看護の統合と実践」に災害看護学実習等を置いている場合、
公衆衛生看護学実習等

教材の活用方法の例－シミュレーション授業における活用例

【演習：トリアージを行うシミュレーション授業の事前学習課題とする】

単元2 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動

項目	学習目標
1. 災害時の医療体制	■ 災害時の医療体制について説明できる 補足) 災害時医療チームの基本的な知識の獲得
2. 災害時のトリアージ	■ 1次トリアージのアルゴリズムを説明できる ■ 発災直後に医療につなぐべき緊急度・重症度が高い対象を判断できる 補足) 様々な事例から学ぶ
3. 医療ニーズが高い人々への支援	■ 医療の継続が必要な避難者のリスクをアセスメントできる ■ 医療の継続が必要な避難者の看護援助を説明できる 補足) 急性増悪や合併症を最小にするための看護援助、医療依存度が高い人の災害への備え

教材の活用方法の例－単元2より

項目1

考えてみよう1 災害時の医療

【日本赤十字社】石巻赤十字病院～東日本大震災 初動の記録～を視聴し、**大規模災害時の医療がどうなっているか**を考えてみましょう。



【日本赤十字社】石巻赤十字病院
～東日本大震災 初動の記録～



項目2

考えてみよう1 事例の情報

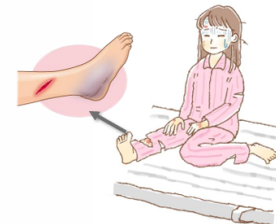
9/16（木）8:00（発災当日）佐藤明さんは足に怪我をした長女のかおりさん（11歳）を背負いながら何とか指定避難所に到着した。



私たちは家族7人です。
長女のかおりは、足をけがして歩けません。

かおりが寝ているところに家具が倒れてきて、
右下肢を強打しました。

佐藤かおりさん
(11歳/小学校5年生)



避難所に駆け付けた山市保健センター磯野保健師は、
かおりさんの様子から治療の優先順位を判断することになった。



これから3つの質問をします。

3つの質問は、実際に看護職が判断し、行動する順番に沿って出題されます。
まずは何をすべきか、そして、次にどうすべきかを考えながら、質問に答えていってください。

長女の状態は、

- 右膝から下の裂傷
- 内出血
- 腫脹
- 疼痛あり
- 自力での歩行不可
- 顔色やや不良
- 名前の問いかけには答える
- 呼吸数 25回/分
- 脈拍 112回/分



教材の活用方法の例－講義における活用例

【講義：災害時要配慮者への対応】

単元3 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動

項目	学習目標
2. 避難所における災害時要配慮者への対応およびアセスメントの視点	■ 災害時要配慮者について説明できる。 ■ 要配慮者の避難場所の選定と対応について説明できる。 ■ 避難所滞在者の中で、支援の必要な対象を把握・判断するためのアセスメントの視点について説明できる。 補足) 災害時における要配慮者の理解、災害時要配慮者の避難生活における困難、避難所における避難時の要配慮者への配慮と滞在スペースの選定、避難所に避難している人々のアセスメントと対応の学習。 登場する様々な要配慮者について、個々の情報を確認しながら、考え学んでいく。

教材の活用方法の例－単元3項目2より

考えてみよう1：質問

9/16（木）午前3時、A県東部を震源とするM8.0の地震が発生。
A県山中市は震度6強。

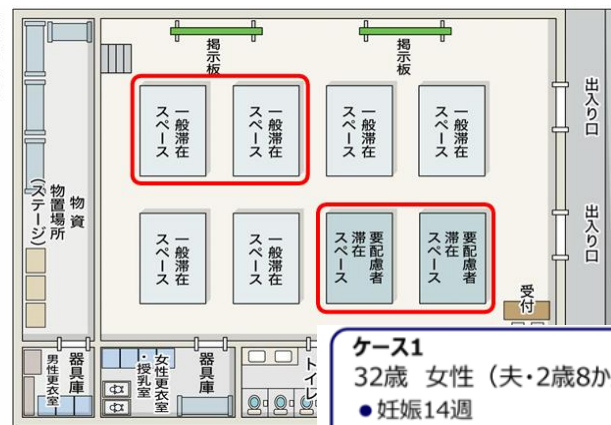
午前8時、指定避難所である、山中中学校へ続々と人がやってきます。
滞在スペースを決めていくにあたり、どのような人びとへの配慮が必要か、考えてみましょう。

考えてみよう1 事例の情報

9/17（金）2日目 磯野保健師が避難所内を巡回していると
気になった人々がいました。

ケースA～Dの人物をクリックし、情報を確認して、どのような対応が必要か考えてみましょう。

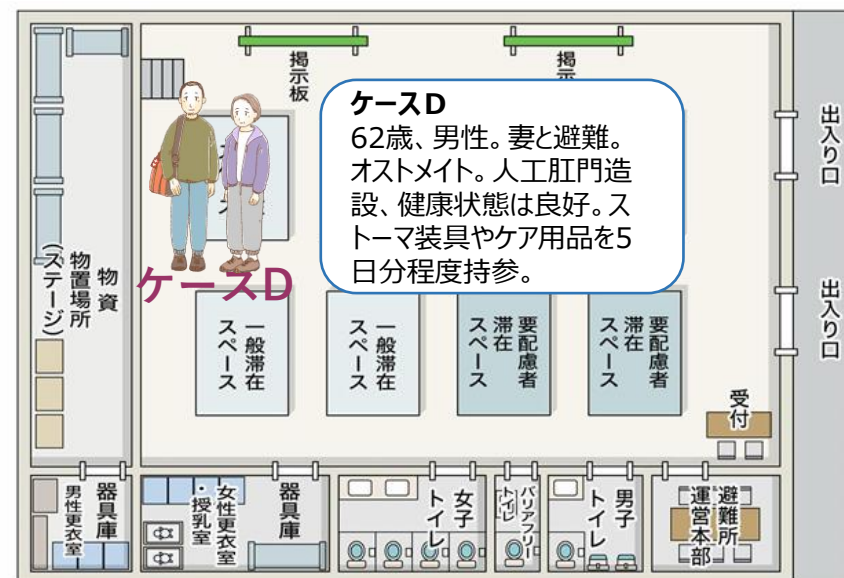
〈体育館〉



ケース1
32歳 女性（夫・2歳8か月の女儿と避難）
●妊娠14週
●直近の妊婦健康診査では特に問題はなし
●つわりあり

ケース3
80歳 男性（長女と避難）
●車椅子使用
●要介護3
●トイレや食事に介助が必要

〈体育館〉



ケースD
62歳、男性。妻と避難。
オストメイト。人工肛門造設、健康状態は良好。ストーマ装具やケア用品を5日分程度持参。

教材の活用方法の例－講義における活用例

【講義：災害時における倫理的課題への対応】

単元3 発災直後～72時間以内の避難所における看護・保健活動

項目	学習目標
4. 避難所における倫理的課題への対応	■ 避難所で生じる可能性のある倫理的課題とそれへの対応について考えることができる。 補足) 看護職の倫理綱領やJohnsenの四分割法を活用する。 事例をもとに、避難所という特殊な環境下で発生する倫理的課題に対して、看護職が多様な支援者とどのように協働して対応していくかを考える。

教材の活用方法の例－単元4項目1より

事例の情報

翔平くん（7歳、男児）



特徴

- 発達障害（ASD：自閉スペクトラム症）
- コミュニケーションが困難
- 感覚過敏（特に聴覚過敏）がある

生活状況

- 山中市立山中小学校の特別支援学級の1年生
- 両親との3人家族

事例の情報

周囲への遠慮から配慮を望まない母親



大丈夫ですか？

すみません、翔平は音に敏感なんです。
避難所の環境は負担が大きいです…。

静かな場所への移動を避難所運営
委員会で検討しましょうか？

いいえ、皆が困っているこの状況で、
特別扱いされるわけにはいかないです…。

磯野保健師



母親と翔平くん

事例の情報

配慮が平等ではないと不満を持つ男性



腰痛がある男性

子どもがうるさく騒げば別の場所に移動できるのか？

不平等じゃないか！私だって腰が痛いのを我慢しているのに！
避難所は騒がしくてゆっくり休めないから、自分たち家族も別の
静かなところに移りたい。

私達は、今の場所で結構ですから…。



翔平くんの母親

考えてみよう1 質問

「周囲への遠慮から配慮を望まない母親」と、
「配慮が平等ではないと不満を持つ男性」の価値の対立により、
翔平くんに必要な支援を提供することが難しくなっている

このような倫理的課題に対応するために、
まず情報を整理しましょう。どのように整理すれば
よいのか考えてみましょう。



事例の情報

避難所での状況

翔平くんは、山中中学校の体育館に両親と避難してきました。

- 体育館の中では比較的静かな奥のスペースに入ってもらった
- 両耳を手で塞いでうずくまった姿勢でいることが多い

翔平くんが、パニックを起こすと…

- 泣き叫びや怒鳴り声、周囲のものを投げるなどの状態が続く
- 両親は翔平くんにお気に入りの毛布を掛ける、背中をさする
などとして、落ち着かせようとするが時間がかかる



教材の活用方法の例－講義における活用例

【講義：二次健康課題のアセスメントと対応】

単元4 72時間以降の避難所における看護・保健活動

項目	学習目標
1. 二次健康課題のアセスメントと対応 (避難者個人)	■ 二次健康課題のアセスメントのポイントを説明できる。 ■ 二次健康課題の避難者の個人レベルでの予防方法を説明できる。 補足) 避難所に避難してきた高齢者の事例をとおして、健康状態と避難所の環境をアセスメントし、個人レベルでの二次健康課題の予防方法について考える。 項目2 および項目3と合わせて学習することにより、個々の避難者および避難所全体の健康管理を行う看護職の役割について総合的に学ぶ。

教材の活用方法の例－単元4項目1より

事例の情報

時枝さん（78歳・女性）



病歴

- 脳梗塞後の軽度の左片麻痺があり、杖歩行
- 高血圧で内服治療中

介護認定

- 要支援2
 - ✓ 週1回、通所リハビリテーション（デイケア）を利用
 - ✓ 食事やトイレなど身の回りのことは、ゆっくりであればひとりでできる

性格

- おだやか
- 人と話をするのが好き

環境

- 夫、長男（明さん）一家と同居
- 本市出身
- 近隣には友人も多い
- 趣味は夫の博さんとの散歩

事例の情報



明さん（時枝さんの長男）

話好きの母親があまりしゃべらず、元気がないんです。

日中も父と二人、避難所でじっとしていることが多いようで……

家族は日中、何かと忙しくてずっとみてられないし。

でもこのままだと足が弱ってしまう気がして心配です。



時枝さん
（78歳、左片麻痺、高血圧で内服中）

心配してもらって申し訳ないですね。
特に、変わったことはありません。

避難所では、あまり動いていないようですが、
お困りのことはありませんか？

左の足が悪いので、立ち上がるのが大変です。
でも家族が助けてくれるので、大丈夫です。



磯野 保健師

考えてみよう1 質問

時枝さんについて、今後、想定される健康上のリスクは
どのようなことが考えられますか。

判断のために必要な情報は何ですか？

自分の言葉で、説明してみましょう。

